

宗麟と天下人

大友宗麟は、元服（成人となるための儀式）の翌年、將軍足利義晴から「義」の字をもらい「義鎮」と名乗りました。また次の將軍義輝からは、多額の金品を進上した見返りとして、新たに肥前・豊前などの守護職や九州探題職に任ぜられています。さらに、將軍との同席が許される御相伴衆にも列せられるなど、九州の大名では並ぶもののない地位を得ました。宗麟は、こうした將軍との密接な関係や室町幕府の権威や秩序を利用しながら、領国の支配を進めていきました。

大友宗麟の生涯

大友宗麟		国内の主な動き
1530	義鑑の長男として塩法師丸（宗麟）が生まれる	1534 織田信長が生まれる 1536 豊臣秀吉が生まれる
1540	足利將軍から名前をもらい、「義鎮」と名乗る	1543 鉄砲が日本に伝わる 1549 ザビエルが来日、キリスト教を伝える
1550	「二階崩れの変」で父を失い、跡を継ぐ	
1551	宗麟がザビエルを府内に招く	
1559	九州6か国の守護となり、九州探題に任命される	
1562	義鎮、入道し「宗麟」と名乗る	1564 將軍足利義輝の調停で、大友氏と毛利氏が和睦
1567	宗麟が信長に中国製の高価な盆を贈る	1570 信長が大友氏と毛利氏の和睦を勧める 1573 信長が足利將軍を京都から追放（室町幕府の滅亡）
1578	高城・耳川の戦いで島津氏に敗北	1580 信長が大友氏と島津氏の和睦を勧める 1582 本能寺の変で信長が自害 1585 秀吉が大友氏と島津氏に停戦を命じる
1586	宗麟が大阪に行き、停戦命令を受諾する	1586 秀吉の九州征伐が始まる
1587	宗麟が津久見で死去	1587 島津氏が秀吉に降伏 1590 秀吉、天下を統一する

織田信長とのつながり

宗麟と織田信長との関係は、信長が美濃国を攻略し、「天下布武」の印判を使用する1567年頃（永禄10）から始まります。彼の実力を早くから見抜いた宗麟は、中国の高価なお盆を贈り、その後も大砲を贈るなど、友好的な関係を築こうとしました。將軍に代わって天下人となった信長は、中国地方の毛利氏との戦いを前に、背後の九州の大名たちを味方につけるために、対立する大友氏と島津氏に和睦を勧める使者を派遣し、さらに大友氏には名馬の中でも、特にすぐれた名馬を贈っています。



織田信長画像
神戸市立博物館蔵

豊臣秀吉とのつながり

信長の後に天下を治め、関白となった豊臣秀吉は、領土をめぐる対立していた大友氏と島津氏の両者に停戦の命令を出しました。秀吉は、これに応じて大坂城に出向いた宗麟を、自ら案内するなど手厚くもてなしました。この時、秀吉から示された「国分」（九州の大名への領国配分）を大友氏は受け入れ、これを拒んだ島津氏は、秀吉率いる約20万の大軍によって「征伐」を受けることになりました。



豊臣秀吉画像
佐賀県立名護屋城博物館蔵